

インストラクター トレーニング コース 概略

レクチャー（1日目）

身体障害の種類：

あなたが担当することになる講習生の身体障害について、インストラクターとして、あなたは良く理解し

ておくべきである。身体障害の解剖学的、生理学的な原因と、身体障害者の心理、またその障害とスキューバダイビングの関係などについてしっかり理解しておかなければならないのである。そうすれば、インストラクターとして、より自信がもて、受講生にもより多くの自信と安心を与えるものである。

H S A の認定基準について

インストラクター傷害責任保険について

講習に際しての特別な問題について：

どういった問題が起こりうるか、またどう解決していくか。我々はITCの実技トレーニングで、全ての「種類」の障害を経験できるものではない。したがって、経験できなかった部分に関しては、プールでのセッション及び、学科講習によってカバーしなくてはならない。

特別に配慮すべき点について：

障害者に対しては、様々な面で特別な配慮を必要とすることがある。インストラクターはこのことを十分に理解し、生徒にも徹底すべきである。ダイブテーブルの使用法などがその一例である。

移動に関する配慮：

教室、プール、ビーチ、ボート、レストラン等、移動に関しては、健常者が見ただけでは計り知れない困難が、障害者にはあるものである。

コンファインドウォーター：（2日目、7ないし8時間）

- ・シミュレーション（4から5時間）/講習に際しては、インストラクターとしてあなたは自分のやり方でやればよいのだが、もしその講習生が別の方法でやる必要があるならば、まず自分でその方法を経験してみることである。
- ・スキューバの導入（2時間）/障害を持った講習生にスキューバダイビングの基礎をトレーニングする。

オープンウォーター：（3日目）

- ・シミュレーション/確実に教えるべきことを全てカバーしたシミュレーションを行い練習する。ボートであれ、ビーチであれ、いろいろな問題を解決していきながら、障害者へのトレーニングを経験してみる。パディーチームは、視覚障害者役、運動機能障害者役、及びインストラクター役を3名で交代して行う。
- ・実際に障害者を受け持ち水中をガイドする。

復習、質疑応答、最終試験（3日目）

実際に障害者を一から教える（4日～6日）